

設問番号	(1) ～ (4)
解答又は 解答例	(1) 経営史の特徴について、経済史との比較を通して説明しなさい。 ➤ 経済史と経営史の特徴・相違点を、経済・企業・人の扱い方から説明すること ➤ 経営史が歴史分析を通じ解明を試みるものは何か ➤ 可能であれば、経営史に特徴的な研究の例を挙げる（例：企業家研究など） (2) チャンドラー・モデルの内容を説明しなさい。 ➤ 企業者企業から経営者企業への変化，所有と経営の分離と専門経営者の登場，長期的観点に基づく戦略的な投資，これらの論理が経営史研究にもたらした影響を説明すること (3) 戦後日本における総合商社の展開を説明しなさい。 ➤ 「総合商社」の定義 ➤ 戦後の専門商社の「総合化」および戦前以来の総合商社の合同 ➤ 総合商社の機能拡充・強化の具体例（流通機能・金融・リスク管理など） ➤ 可能であれば，バブル期から近年に至るまでの変化にも言及すること (4) 戦前日本における労務管理の展開を説明しなさい。 ➤ 近代化初期の雇用形態（間接雇用）を説明すること ➤ 科学技術の進歩が直接管理を可能にしたこと ➤ 階層的職制や科学的管理法の導入など，管理手法の高度化を説明すること ➤ 可能であれば，戦前の労働運動の展開にも言及すること 《参考文献》 ・宮本又郎・岡部桂史・平野恭平編（2014）『1からの経営史』，碩学舎。 ・宮本又郎ほか（2023）『日本経営史 第3版』，有斐閣。 ・ミネルヴァ書房『講座 日本経営史』シリーズ ・米倉誠一郎（1998）「経営史学の方法論：逸脱・不規則性・主観性」『一橋論叢』，第120巻第5号，78－92頁。 ・アルフレッド・D・チャンドラー著，鳥羽欽一郎ほか訳（1979）『経営者の時代 上・下』，東洋経済新報社。
出題の意図	（日本）経営史の経済史との相違点や方法論に関する問題と，産業・経営管理に関する問題，それぞれ2つを出題した。経営史は経済史と類似性の強い分野であるが，なぜ経営史という分野として独立しているのか。その理由を理解することは，修士課程での研究に必要と思われる。チャンドラー・モデルは，経営史以外でもでも取り上げられる重要トピックである（経営戦略・組織論など）。